

2026年度

シラバス



学校法人 湯梨浜学園

湯梨浜学園高等学校

〒689-0727 鳥取県東伯郡湯梨浜町田畑3-2-1

TEL (0858)48-6810

FAX (0858)48-6813

シラバス

教科 科 名	国語	科 目 名	言語文化	単 位 数	2		
対 象	高校1年	履 修 形 態	必修	授 業 形 態	一斉		
学 習 の 到達 目 標	① 上代から現代に亘る作品世界を正確に理解し、的確に処理し、豊かに表現できる力を養う。 ② 現代文学・古典文学への関心を高めるとともに、思想・思考の幅を広げ心情を豊かに育む。 ③ 表現技法や古典文法を学びながら言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。						
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストなどで評価。 ② 思考・判断・表現…定期考査、課題提出物、提出レポートや発表資料などで評価。 ③ 主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み方、自己評価シート、探究学習などで評価。						
学 習 方 法	① 知識の定着に努め、様々な作品に触れその特徴を理解した上で世界観の正確な把握を目指す。 ② 教科書・図説・関係資料等を用い、文法を根幹とした読解力を身に付け、古典に対する興味を喚起する。 ③ 発表資料作成や受験対策問題集等を用い、受験レベル問題の解法、古典の探究・文学作品批評など幅広く学ぶ。						
教科書・教材等	言語文化（大修館） 古文単語コア350（旺文社） 古典グレートラーニング4 8レベル2（尚文） 古典文法10題ドリル古文基礎編（駿台文庫） 必携新明説漢文（尚文） 自作テキストなど						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	復習及び発展内容 古文：「宇治拾遺物語」 絵仏師良秀	表現の特徴を学ぶとともに古文の世界観を感じる。また、古典文法の助動詞を中心に理解を深めていく。説話の構成を理解する。	6	10	古文：「方丈記」 ・行く河の流れ	作者の人生観・社会観を形成した社会的状況を具体的な描写から捉え、無常観について理解する。対句表現や比喻などの修辞技巧を理解し、その表現効果について考える。	8
5	漢文： 「臥薪嘗胆」（十八史略）	漢文調の文体や寓意的な表現に注意しながら内容を捉え、人物や思想、背景などを理解させる。また、句法や句形を習得する。 作品の構成・展開・表現技法を学ぶとともに、作品を通して、当時の人々の考え方を学ぶ。	6	11	古文：「土佐日記」 ・門出 ・帰京	日記の形式や、文体、意図を理解し、作者の心情を味わって読む。また、表現や修辞、和歌、文体等の特色を理解する。	8
6	小説：「羅生門」	近代の代表的な小説を読み、描かれた人間の生き方や場面・心情の変化を表現に即して読み味わう。古の時代の人々が見、感じていた世界観を感じると共に、学び、活かせるようにする。また、古典文法・句法・表現について理解し深めていく。	8	12	小説：「セメント樽の中の手紙」 復習及び発展内容	時代背景と登場人物との関係を理解したり、会話文や手紙から登場人物の状況や心情を理解する学習に、意欲的に取り組む。	8
7	短歌： 十五首 俳句： 十二句	俳句・短歌に興味をもち、作品内の情景や心情を読み味わう。自分の作品を仕上げ、俳句・短歌の大会への応募を叶える。	6	1	古文：「更級日記」 ・あこがれ	京や作品などへの強い憧れを抱く作者の心情を理解する。また、女流日記文学や作者について概要を理解する。	6
8	復習及び発展内容		2	2	漢文： ・雑説（韓愈）	当時の思想を読み解き、寓意の指すところを意識しながら内容を捉え、作者の主張について理解を深める。また、句法や語句を習得する。	8
9	小説：「青が消える」 漢文：「故事成語」 ・先従隗始 「史記 本紀」 ・鴻門之会 ・項王の最期 (～12月)	・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 故事成語・史伝の叙述のおもしろさや成り立ちを理解し、句法を学ぶ。また、漢詩の技法を習得する。	8	3	復習及び発展内容		6

教科科名	国語		科目名	現代の国語		単位数	2				
対象	高校1年		履修形態	必修		授業形態	一斉				
学習の到達目標	① 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理・共感・想像の力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高める。 ② 深い思考力・読解力・表現力を身につけていく。その力を各種文芸コンテスト、検定に活かすことが出来る。 ③ 論理的思考力を養う文章、実社会に必要な文章を基に考えをまとめ、他者に分かりやすく表現できる。										
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み方、自己評価シートなどで評価。										
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を身に付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。										
教科書・教材等	現代の国語（大修館） 現代文ニューグレード現代文Ⅱ										
年間授業計画											
月	学習内容		学習のねらい		時数	月	学習内容		学習のねらい		時数
4	「ことばと思考」 「言葉の中に生まれる」		文章を読み論の進め方や表現について理解し、自分の考えを持てるようにする。 他者と意見を交わし、思考を膨らませることの基本を学ぶ。		6	10	「言葉についての新しい認識」		言語学に関する文章を読み、文化・習慣の違いから起こる変化を認識する。また、要約力を高める。 社会に溢れる様々なメッセージを正しく解釈する。		8
5	「『動』への変化」		文章の論理の展開の仕方を的確に捉え、内容を理解し、必要な情報を集め、要約する。 他者に意見を伝える際の文章のまとめ方を学ぶ。		6	11	「贅沢を取り戻す」		本文から、現代社会の抱える問題点を掴み課題解決の道を模索する力を養う。		8
6	「『安くておいしい国』の限界」		筆者の問題提起とその論拠について自分の意見をまとめる。 広い視野を持ち現代社会を捉える。		8	12	「作業ロボットの悲劇」		論理の展開を理解し、主張を読み取る。また、主体的に論理的な文章に触れ合う習慣を身に付け、他者に内容を伝える力を養う。		6
7	「美しさの発見について」 「脳は美をどう感じるか」		複数の資料、情報を比較しながら、文章を読むことが出来るようになる。		6	1	「人新世」における労働		様々な資料を基に自分の意見を他者に伝えることが出来るようになる。また、説得力を持った論を展開するための資料作りが出来るようになる。		6
8	復習及び発展内容				2	2	入試問題演習		共通テストや大学入試の過去の問題を解き進めることで、培った自分の国語の力を発揮できるようにする。		8
9	「空気を読む」		評論の内容を吟味し、描かれた内容に対する自身の捉え方の変化を読み味わう。		8	3	入試問題演習		共通テストや大学入試の過去の問題を解き、自分の課題や伸ばしたい能力について考える。その後、国語を学ぶ計画を立てることが出来る。		6

備考 ・適宜、作文・小論文指導を行う。

教科名	地理総合・歴史総合	科目名	地理総合・歴史総合	単位数	4
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 地理的な見方・考え方を働かせ、国際社会に主体的に生きる公民としての資質と能力を身につけることができる。 ② 18世紀以降の世界と日本の歴史的事象を考察する手がかりとなる概念・理論を習得する。 ③ 習得した基本的な考え方を活用し、考察できる。 ④ 諸事象の時系列的展開や変化、事象の比較・背景・結果などに着目し、関連させたりする。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、配信し書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言・発表、定期考査、書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材にて知識の定着を図る。 ③ 資料や文章史料をテーマに沿って読み取り、要点をまとめる。				
教科書・教材等	地理総合ワークブック（二宮）、新編地理資料（とうほう）、地理総合（二宮）、新詳高等地図（帝国書院） 現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社）				

年 間 授 業 計 画							
地理総合				歴史総合			
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	第1章 地図とGISの活用	地球上の位置情報の基礎を身につける。図法によって異なる地図の特色をつかむ。領有権問題や海洋資源利用について考える。人や物・サービスの移動について理解する。GISの特徴を理解した上で、該当する地域の特徴を考察する。	6	4	第1章 結びつく世界と日本の開国	18世紀の東アジアの社会と経済、アジアの地域間での貿易と欧米諸国との新しい貿易、産業革命、中国の開港と日本の開国などを扱う。	6
5	第1章つづき		6	5	第1章つづき		6
6	第2章 地理的環境の特色	大地形の広がりや、プレートテクトニクスによるプレート境界と関連し、さまざまな地形を形成していることを理解する。大気や海流の循環のしくみを理解する。世界の気候を、ケッペンの気候区分をもとにして理解する。各地域の生活文化の特徴をとらえる。第1次産業・第2次産業の地域的な特徴をつかむ。第3次産業の地域的な特徴を理解する。宗教・言語分布や人々とのかかわりを、主題図などの資料を通して把握する。	8	6	第2章 国民国家と明治維新	アメリカ独立とフランス革命、明治維新をはじめとしたアジア諸国の変革、大日本帝国憲法の制定、列強の植民地形成、日清・日露戦争などを扱う。	8
7	第2章つづき		6	7	第2章つづき		6
8	第2章つづき		2	8	第3章 総力戦と社会運動	第一次世界大戦の展開、ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、大戦後の国際協調体制、世界経済の変容とアジアのナショナリズムの動向、大衆の政治参加と大衆消費文化の形成などを扱う。	2
9	第2章つづき		8	9	第3章つづき		8
10	第3章 世界各地の生活文化	民族・経済・貿易・宗教・開発などの観点から各地域をとらえ、地域に存在する課題を理解する。地球環境問題について、将来予測図などを踏まえて、解決の取り組みを考える。	8	10	第4章 経済危機と第二次世界大戦	第二次世界大戦に向かう世界と大戦後の国際体制、及び冷戦の表面化、戦後の日本を扱う。	8
11	第3章つづき 第4章 地球的課題と国際協力	資源の分布の偏在性や国家間格差、将来的な課題について理解する。人口が集まる都市の特徴や、先進国・途上国での違いを理解する。都市問題を解決するため、各国が採ってきたこれまでの取り組みを理解する。	8	11	第4章つづき		8
12	第4章つづき		6	12	第5章 冷戦と世界経済	冷戦期の1950年代から60年代にかけての時期に、植民地からの独立と地域紛争が東西対立とどのように関連していたのかということや、地域統合の進展と社会主義諸国の動向、さらに高度経済成長が進む日本とアジアとの関係がどのように結ばれていたのかについて考える。	6
1	第5章 生活圏の諸課題	資料・主題図をもとに、日本列島における災害リスクを引き起こす要因となる事象を理解する。風水害・火山災害・地震・津波・都市型災害の具体的事例を理解する。自然災害への備えをどうすればよいかを考え、減災意識を向上させる。GISを活用し、災害発生の可能性がある際の被害回避の方法等を提案する。日本が抱える地域的課題について、主題図を適切に読み取る。	6	1	第5章つづき		6
2	第5章つづき		8	2	第6章 世界秩序の変容と日本	石油危機から現在までの時期に注目し、人・商品・資本・情報などが国境を越えて一層流動し、経済のグローバル化が進展したことを扱う。	8
3	第5章つづき		6	3	第6章つづき		6

備考

教科名	公民	科目名	公共	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 現代の諸課題を考察する手がかりとなる概念・理論を習得し、諸資料をもとに現在の問題を考えることができる。 ② 習得した基本的原理を活用し、事実をもとにしてさまざまな角度から考察できる。 ③ 現代の諸課題を主体的に解決しようとすることができる。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、配信し書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言・発表、定期考査、書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。						
学習方法	① 教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材にて知識の定着を図る。 ③ 諸資料をテーマに沿って読み取る。						
教科書・教材等	公共（東京書籍）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1部 「公共」とびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち	青年期の特徴や発達過程について理解する。 日本・世界の思想家の考え方や「公」と「私」のとらえ方を理解する。	6	10	第3章 経済社会で生きる私たち 第4章 私たちの職業生活	財政のしくみ・租税や国債の役割・社会保障の意義と現状について、実際の事象と関連付けて理解する。 働くことの意義・労働市場の役割・キャリア形成の課題について理解する。	8
5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方 生き方 第3章 公共的空間における基本的原理	ベンサムの功利主義・ミルの内的強制力、徳倫理学の考え方、カントの義務論、ロールズの考え方を理解する。 民主主義・法の支配の意義や、人間の尊厳と平等における歴史的展開を理解する。	6	11	第4章 私たちの職業生活 第5章 国際社会の中で生きる私たち	労働契約の特性・労働三法の内容・日本の労働問題について、実際の事象と関連付けて理解する。 国際法の意義と役割・集団安全保障のしくみ・国際連合の役割などを理解する。	8
6	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	地方自治・国会・内閣の役割と権限を、実際の政治事象を手掛かりにして理解する。 行政の肥大化、日本の選挙制度の課題、政党・政治資金の課題、ネット時代の世論形成と課題を理解する。	8	12	第5章 国際社会の中で生きる私たち	冷戦後の安全保障政策、紛争とその要因・難民問題の発生と解決に向けた取り組みを理解する。	6
7	第2章 法の働きと私たち	社会規範上の法の特徴、裁判における法の適用と解釈、私法の三つの原則を理解する。 消費者保護法制や契約の特徴を理解する。	6	1	第5章 国際社会の中で生きる私たち	国際収支統計の意味・リカードの比較生産費説が理解できる。 為替のしくみ・国際金融の動向について、実際の経済的事象と関連付けて理解できる。	6
8	第2章 法の働きと私たち	司法権の成立過程、裁判制度のしくみ、違憲審査制について理解する。	2	2	第5章 国際社会の中で生きる私たち 第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	南北問題の背景と推移、人口問題、格差の是正に向けた取り組みを理解する。 第1章・第2章であったテーマから1つ選択し、課題を設定し、レポートを書く。	8
9	第2章 法の働きと私たち 第3章 経済社会で生きる私たち	刑事司法のしくみ、検察審査会制度について理解する。 経済主体と経済循環について実際の経済事象と関連付けて理解する。	8	3	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	第1章・第2章であったテーマから1つ選択し、課題を設定し、レポートを書く。	6

備考

教 科 名		数学	科 目 名		数学Ⅰ(数学ⅠⅡ)	単 位 数	3				
対 象		高校1年	履 修 形 態		必修	授 業 形 態	習熟度別				
学習の到達目標		① 高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数について理解すること。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。 ③ 数学的知識を活用し、表現できる力を育てる。									
評価の観点 評価方法		① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、 「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。									
学習方法		① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ③ 今までに学んだ考え方・公式等と、授業で新たに学んだ考え方・公式のつながりを意識するよう心がける。									
教科書・教材等		高等学校 数学Ⅱ(数研出版) 改訂版 4STEP 数学Ⅱ+B(数研出版)、チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)									
年 間 授 業 計 画											
月	学習内容		学習のねらい		時数	月	学習内容		学習のねらい		時数
4	＜数学Ⅱ＞ 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と 2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係		数の広がりを複素数まで学び、数の知識、理解を深める。 解と係数の関係で解に関するいろいろな問題が処理できるようになる。		9	10	3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用		三角関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 三角関数の方程式や不等式の理解を深める。	12	
5	第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点		剰余の定理を用いて、余りを求めることができるようにする。 高次方程式の理解を深める。 座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。		9	11	第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用		三角関数の加法定理を理解し、応用分野まで発展させる。	12	
6	3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線		円の方程式、円と直線との関係を見出し、理解を深める。		12	12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式		平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解する。	9	
7	7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式		2つの円の位置関係を条件より求めることができるようにする。 与えられた条件を満たす点の軌跡を式で表せるようにする。		9	1	第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用		微分と積分法の関係を理解し、増減表、グラフの応用まで活用できるようにする。	9	
8	■図形と方程式問題演習				3	2	第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積		定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解する。定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。積分と面積の関係を理解し、活用できるようにする。	12	
9	9. 不等式の表す領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数		不等式を満たす点の集合が、平面上のある領域を表すことを理解する。 一般角や弧度法を理解し、それを用いて三角比が求められるようになる。		12	3	問題演習			9	

教科 科 名		数学	科 目 名		数学A(数学BC)	単 位 数	2
対 象		高校1年	履 修 形 態		必修	授 業 形 態	習熟度別
学 習 の 到達 目 標		① 指数・対数関数、数列、ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習得を図る。 ② 事象を数学的に考察し、処理する能力を育てる。 ③ 数学的な見方や考え方のよさを認識できる。					
評価の観点 評価方法		① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。					
学 習 方 法		① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。					
教科書・教材等		高等学校 数学Ⅱ(数研出版)、高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版) 4STEP 数学Ⅱ+B(数研出版)、チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版) 文系：4STEP 数学C(数研出版)、チャート式基礎からの数学C(数研出版) 理系：4STEP 数学Ⅲ+C(数研出版)、チャート式基礎からの数学Ⅲ+C(数研出版)					
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	<数学Ⅱ> 第5章 指数関数と対数関数 第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	6	10	8. いろいろな数列の和 9. 漸化式	和の求め方を工夫し、数列の和を求められるようにする。群数列を考察できるようにする。 基本的なパターンの漸化式の問題が素早く解けるようにし、文章から式をたてることができるようにする。	8
5	5. 常用対数 ■対数関数問題演習	常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。	6	11	第3節 数学的帰納法 10. 数学的帰納法 ■数列問題演習	数学的帰納法の考え方を理解し、等式や不等式の証明ができるようにする。	8
6	<数学B> 第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列	数列の定義・表記を理解し、関連する用語を適切に用いることができる。数の並びからその規則性を推定して、数列の一般項を考察できるようにする。初項と公差を文字を使って表すことができるようにする。	8	12	<数学C> 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算	ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。	6
7	3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	等差数列の和の公式を適切に利用できるようにする。 初項や公比を文字をつかって表すことができるようにする。 等比数列の和の公式を適切に利用できるようにする。	6	1	3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができるようにする。ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができるようにする。	6
8	■等差数列、等比数列 問題演習		2	2	第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	位置ベクトルを導入し、線分の内分点、外分点の位置ベクトル、三角形の重心の位置ベクトルを求めることができるようにする。位置ベクトルを用いて、始点の変更による式変形ができるようにする。線分上の点を、線分をs：(1-s)に内分する点として処理できるようにする。	8
9	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ 7. 階差数列	Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 数列の規則性の発見に階差数列を利用でき、もとの数列の一般項が求められるようにする。	8	3	■ベクトル問題演習		6

教科名	理科	科目名	科学と人間生活(物理分野)	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 物理的な事物・現象についての関心・探究心を高め、概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然を探究する能力や態度を高める。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	物理基礎(数研出版) センサー総合物理(啓林館)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔科学と人間生活〕 1. 物質の科学 2. 生命の科学	・プラスチックの特徴、用途について理解する。 ・リサイクルについて理解する。 ・DNAの構造と特徴について理解する。 ・タンパク質の合成について理解する。	6	10	2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関	・状態変化を熱エネルギーから考察し、潜熱を求めることができ ・熱力学第一法則を理解する。 ・熱機関のはたらきを理解し、熱効率を求めることができる。	8
5	3. 地球や宇宙の科学	・自然災害について理解する。	6	11	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波の媒質と振動	・波の分野で新たに導入される波長、振動数、周期などの定義を理解し、波を考察する。 ・任意の座標や時間、 y-xグラフおよび y-tグラフを描くことができる。	8
6	〔物理基礎〕 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動	・物体の運動方程式を解き、加速度や速度を求めることができる。 ・状況に応じて摩擦力を判断し、記述することができる。	8	12	2. 波の伝わり方	・重ね合わせの原理や定常波について理解する。 ・自由端、固定端の時の波の反射について理解し、合成波を描くことができる。	6
7	5. 液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー	・圧力や浮力の発生原理について理解し、適切に公式が使える。 ・仕事の定義を理解し、仕事を正確に計算することができる。 ・運動、弾性、位置エネルギーを理解する。	6	1	第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振共鳴	・音を波として考察し、それによって理解ができる現象があることを知る。 ・弦、閉管、開管の場合についてそれぞれ定常波の形を理解し、適切に記述できる。	6
8	4. 力学的エネルギーの保存	・様々な運動に対しエネルギー保存、エネルギーと仕事の関係を理解する。	2	2	〔物理〕 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度 2. 落体の運動	・2次元平面内の運動を物理基礎で学習した公式を応用して理解する。	8
9	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量	・温度の定義を確認し、熱エネルギーとの関係を学び、熱量保存則を理解する。	8	3	第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力とつり合い 2. 剛体にはたらく力の合力と重心	・大きさのある物体について導入する力のモーメントについて理解し、つり合いの式を立て方を身に付ける。 ・重心の定義を正確に理解し、様々な形の物体の重心を求めることができる。	6
備考	令和9年度より実施するSSH設定科目「環境SE-B」の試行として、探究的内容を取り扱う。						

教科名	理科	科目名	科学と人間生活(生物分野)	単位数	2	
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉	
学習の到達目標	① 生物や生物現象についての概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。					
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価					
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。					
教科書・教材等	生物基礎(東京書籍)、生物(東京書籍) センサー総合生物(啓林館)					
年間授業計画						
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい
4	〔科学と人間生活〕 1. 物質の科学 2. 熱や光の科学	・プラスチックの特徴、用途について理解する。 ・リサイクルについて理解する。 ・エネルギーの移り変わりについて理解する。 ・電磁波の種類とその利用について理解する。	6	10	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体液という体内環境	・細胞が安定した生命活動を維持できるしくみを理解する。
5	3. 地球や宇宙の科学	・自然災害について理解する。	6	11	2. 腎臓と肝臓 3. 神経とホルモンによる調節	・腎臓と肝臓のはたらきを理解する。 ・神経とホルモンによる情報伝達と分泌調節のしくみを理解する。
6	〔生物基礎〕 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・生命活動とそれを支えるエネルギーについて理解する。 ・酵素反応の実験観察を行う。	8	12	4. 免疫	・免疫による生体防御のしくみを理解する。
7	3. 光合成と呼吸 第2章 遺伝子とそのはたらき	・光エネルギーを化学エネルギーに変える光合成と生命活動に必要なエネルギーを取り出す呼吸について理解する。	6	1	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. さまざまな植生 2. 植生の遷移	・陸上でみられるさまざまな植生について理解する。 ・植生が移り変わる過程とそのしくみについて理解する。
8	1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現	・DNAの構造と遺伝情報の関係について理解する。 ・DNAモデルを作製する。 ・遺伝情報からタンパク質が合成される過程を理解する。	2	2	3. 気候とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 物質循環とエネルギーの流れ	・気候ごとの植生と生物のまとまりを理解する。 ・生態系の成り立ちや生物どうしのつながりを理解する。 ・炭素の循環に伴うエネルギーの移動について理解する。 ・窒素の循環について理解する。
9	2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配	・遺伝情報からタンパク質が合成される過程を理解する。 ・遺伝情報の分配と分配された遺伝情報について理解する。 ・体細胞分裂の実験観察を行う。	8	3	3. 生態系のバランス 4. 人間生活と生態系の保全	・生態系のバランスとは何かを考える。 ・生態系に及ぼす人間活動の影響と生態系の保全の重要性について理解する。
備考	令和9年度より実施するSSH設定科目「環境SE-B」の試行として、探究的内容を取り扱う。					

時数
8
8
6
6
8
6

教科名	理科	科目名	科学と人間生活（外進）	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 自然現象に対する興味・関心を高め、目的意識をもって、観察・実験などを行う。 ② 科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	科学と人間生活（第一学習社），化学基礎（東京書籍） センサー総合化学（啓林館）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	〔科学と人間生活〕 1. 物質の科学 2. 熱や光の科学	・プラスチックの特徴、用途について理解する。 ・リサイクルについて理解する。 ・エネルギーの移り変わりについて理解する。 ・電磁波の種類とその利用について理解する。	6	10	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体液という体内環境	・細胞が安定した生命活動を維持できるしくみを理解する。	8
5	3. 地球や宇宙の科学	・自然災害について理解する。	6	11	2. 腎臓と肝臓 3. 神経とホルモンによる調節	・腎臓と肝臓のはたらきを理解する。 ・神経とホルモンによる情報伝達・分泌調節のしくみを理解する。	8
6	〔生物基礎〕 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・生命活動とそれを支えるエネルギーについて理解する。 ・酵素反応の実験観察を行う。	8	12	4. 免疫	・免疫による生体防御のしくみを理解する。	6
7	3. 光合成と呼吸 第2章 遺伝子とそのはたらき	・光エネルギーを化学エネルギーに替える光合成と生命活動に必要なエネルギーを取り出す呼吸について理解する。	6	1	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. さまざまな植生 2. 植生の遷移	・陸上でみられるさまざまな植生について理解する。 ・植生が移り変わる過程とそのしくみについて理解する。	6
8	1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現	・DNAの構造と遺伝情報の関係について理解する。 ・DNAモデルを作製する。 ・遺伝情報からタンパク質が合成される過程を理解する。	2	2	3. 気候とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 物質循環とエネルギーの流れ	・気候ごとの植生と生物のまとまりを理解する。 ・生態系の成り立ちや生物どうしのつながりを理解する。 ・炭素の循環に伴うエネルギーの移動について理解する。 ・窒素の循環について理解する。	8
9	3. 遺伝情報の分配	・遺伝情報の分配と分配された遺伝情報について理解する。 ・体細胞分裂の実験観察を行う。	8	3	3. 生態系のバランス 4. 人間生活と生態系の保全	・生態系のバランスとは何かを考える。 ・生態系に及ぼす人間活動の影響と生態系の保全の重要性について理解する。	6

教科 科 名	理科	科 目 名	化学基礎(理系)	単 位 数	2		
対 象	高校1年	履 修 形 態	必修	授 業 形 態	一斉		
学 習 の 到達 目 標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。						
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学 習 方 法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍)，化学(東京書籍) センサー総合化学(啓林館)，オリジナルテキスト						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	第2章 酸と塩基 1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度とpH	・酸と塩基の定義や性質、 反応について学ぶ。 ・酸と塩基の強さと、 水素イオン濃度の関係を学ぶ。 ・水の電離とpHについて学ぶ。	6	10	第2章 気体の性質 1. 気体 2. 気体の状態方程式	・体積，温度，圧力など気体に 共通する法則について学ぶ。 ・理想気体の状態方程式について 学ぶ。 ・理想気体と実在気体の違いに ついて学ぶ。	8
5	3. 中和反応と塩の生成 4. 中和滴定	・中和反応および塩の種類と 性質を学ぶ。 ・中和滴定の操作を習得し、 量的関係を学ぶ。	6	11			8
6	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応	・電子の授受による酸化還元の 定義を学ぶ。 ・酸化剤と還元剤のはたらきから 酸化還元反応を学ぶ。 ・金属のイオン化列と 化学反応との関係を学ぶ。	8	12	第3章 溶液の性質 1. 溶解 2. 希薄溶液の性質 3. コロイド	・溶解のしくみや溶解量について 学ぶ。 ・蒸気圧降下，沸点上昇，凝固点 降下などの溶液の性質を学ぶ。 ・コロイドの性質を学ぶ。	6
7	4. さまざまな 酸化還元反応	・電池の性質を学ぶ。 ・水溶液の電気分解の原理を学	6	1			6
8	[化学] 第1編 物質の状態 第1章 物質の状態 1. 物質の三態 2. 気体・液体間の 状態変化	・熱運動と三態について理解す る。 ・分子間力と状態変化について 理解する。	2	2	第4章 固体の構造 1. 結晶 2. 金属結晶の構造 3. イオン結晶の構造 4. 分子結晶と共有結合 の結晶	・結晶の成り立ちとその構造に ついて学ぶ。 ・金属，イオン結晶格子について 学ぶ。 ・分子結晶，共有結合の結晶に ついて学ぶ。 ・アモルファスについて学ぶ。	8
9			8	3			6

備考

教科名	理科	科目名	化学基礎(文系)	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	改訂 化学基礎(東京書籍) センサー総合化学(啓林館)、オリジナルテキスト						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第2章 酸と塩基 1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度とpH	・酸と塩基の定義や性質、反応について学ぶ。 ・酸と塩基の強さと、水素イオン濃度の関係を学ぶ。 ・水の電離とpHについて学ぶ。	6	10	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と量的関係	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
	5		3. 中和反応と塩の生成 4. 中和滴定				6
6	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応	・電子の授受による酸化還元の定義を学ぶ。 ・酸化剤と還元剤のはたらきから酸化還元反応を学ぶ。 ・金属のイオン化列と化学反応との関係を学ぶ。 ・電池の性質を学ぶ。 ・水溶液の電気分解の原理を学ぶ。	8	12	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和滴定	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6
7	4. さまざまな酸化還元反応		6				1
8	[化学基礎] 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 元素の性質と周期律	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	2	2	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属と酸化還元反応 電池・電気分解	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
9	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 物質の分類	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	3			6

備考

教科 科 名		理 科		科 目 名		化学基礎(外進)		単 位 数		2	
対 象		高校1年		履 修 形 態		必修		授 業 形 態		一斉	
学 習 の 到達 目 標		① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。									
評 価 の 観 点 評 価 方 法		① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 化学の基本的な概念や原理・法則の理解・・・小テストや定期考査で評価									
学 習 方 法		① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。									
教科書・教材等		改訂 化学基礎(東京書籍) センサー総合化学(啓林館)、オリジナルテキスト									
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	第1編 第1章 物質の構成元素 1. 物質の成分 2. 物質の構成元素 3. 物質の三態		・物質の分類や分離、生成方法を学ぶ。 ・単体、化合物、元素の概念を学ぶ。 ・物質の状態変化について学ぶ。		6	10	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と量的関係		・相対質量の概念を学ぶ。 ・物質のモル質量の求め方を学ぶ。 ・物質量とその単位「mol」について学ぶ。 ・気体の密度について学ぶ。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の求め方を学ぶ。 ・化学反応における物質の量的関係を物質量を用いて学ぶ。		8
	5				6	11		8			
6	第2章 原子の構造と元素の周期表 1. 原子の構造 2. 元素の周期律と元素の性質		・原子の構造、電子配置と原子の性質との関係性を学ぶ。 ・元素の周期律と元素の性質を学ぶ。		8	12	第2章 酸と塩基 1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度とpH 3. 中和反応と塩の生成 4. 中和滴定		・酸と塩基の定義や性質、反応について学ぶ。 ・酸と塩基の強さと、水素イオン濃度の関係を学ぶ。 ・水の電離とpHについて学ぶ。 ・中和反応および塩の種類と性質を学ぶ。 ・中和滴定の操作を習得し、量的関係を学ぶ。		6
7	第3章 化学結合 1. イオンとイオン結合 2. 分子と共有結合		・イオン結合のでき方と性質を学ぶ。 ・共有結合のでき方と性質、配位結合について学ぶ。 ・電気陰性度と分子の極性について学ぶ。 ・金属結合のでき方と性質について学ぶ。 ・ファンデルワールス力と水素結合について学ぶ。 ・物質の分類方法を学ぶ。		6	1					6
8	3. 金属と金属結合 4. 物質の分類				2	2	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. さまざまな酸化還元反応		・電子の授受による酸化還元反応の定義を学ぶ。 ・酸化剤と還元剤のはたらきから酸化還元反応を学ぶ。 ・金属のイオン化列と化学反応との関係を学ぶ。 ・電池の性質を学ぶ。 ・水溶液の電気分解の原理を学		8
	9				8	3					6

教科 科 名	芸術	科 目 名	音楽Ⅰ	単 位 数	2		
対 象	高校1年	履 修 形 態	選択	授 業 形 態	一斉		
学 習 の 到達 目 標	① 音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。 ② 音楽に関する感性を高める。 ③ 創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。						
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 自己のイメージをもち、感性を働かし、創造的で個性豊かに技能を身に付けている。 ② 音楽文化に対する総合的な理解を深め、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。 ③ 音楽文化を愛好・尊重し、個性豊かに意欲的・主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わう。						
学 習 方 法	① 腹式呼吸による発声練習を通し、中学時に身につけた能力をさらに伸張する。 ② 基本的な楽典を学び、視唱（奏）力を身に付ける。 ③ 器楽による独奏・合奏。 ④ 作品の時代・文化背景を知り、世界の音楽をより深く理解・鑑賞し、多様性を学ぶ。						
教科書・教材等	高校生の音楽（教芸）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	豊かな表現を目指した歌唱 「Caro mioben」 「Sing」 「Danny Boy」 「The Sound of music」 「Happy birthday to you」	英語曲の学習による、難易度の高い演奏に重きを置く。	6	10	鑑賞 日本と世界の諸民族の音楽鑑賞 オペラ・アジアの音楽 日本の音楽・ジャズ	歴史・文化・風土を含め、より深く、作品についての深い理解を目指す。各国の多様性と幅広い価値観を理解させる。 ＊9月からの継続	8
5			6	11	「少年時代」 「世界に一つだけの花」 「四季の歌」	自分の持つイメージ・感情を豊かに表現できているかを重視する。	8
6	器楽 ギター 「クリーガーのメヌエット」 「グリーンスリーブス」	鑑賞活動との関連を図りながら楽器の特徴や奏法の違いを体験的に理解し、美しい音色を求め演奏させる。	8	12	美しいハーモニーを目指す 3部合唱 「COSMOS」 「道」	調和するハーモニーを目指し、まとまりを大切にしながら作品を作り上げさせる。	6
7			6	1	音楽発表会にむけてのグループ練習	各グループに分かれ、歌・器楽演奏の発表に向け練習する。	6
8	鑑賞 日本と世界の諸民族の音楽鑑賞 オペラ・アジアの音楽 日本の音楽・ジャズ	歴史・文化・風土を含め、より深く、作品についての深い理解を目指す。各国の多様性と幅広い価値観を理解させる。	2	2			
9			8	3	音楽発表会 グループ・個人による音楽発表会と相互評価 「卒業式関連唱歌」	1年を通して身につけた技術・表現力で、個々の個性を生かした歌唱・合唱・器楽等を行う。発表会形式の実技試験を行う。	6

備考：曲目は変更される場合があります

教科 科 名		芸術		科 目 名		美術 I		単 位 数		2	
対 象		高校1年		履 修 形 態		選 択		授 業 形 態		一 斉	
学 習 の 到 達 目 標		① 表現および鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛する心情を育てる。 ② 感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。									
評 価 の 観 点 評 価 方 法		① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。（美術への関心・意欲・態度） ② 感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。（発想や構想の能力） ③ 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。（創造的な技能）									
学 習 方 法		個人制作と一斉授業。									
教科書・教材等		高校美術 I（日文） 水彩用具、スケッチブック、資料、など									
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	鉛筆で静物、風景、人物を描く。		対象をよく観察して形、明暗、量感、質感などを描写する。		6	10	水彩で静物、風景を描く。 ＊9月の内容の継続		鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。		8
5					6	11	シナ材の板、石などから彫刻刀を使って掘り出す。		想像力を働かせて、自分らしい表現ができたか、最後まで仕上げることができたかどうかをみていく。		8
6					8	12					6
7	色鉛筆で静物、風景を描く。		鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。		6	1	デザインを表現する。		イラストレーションの表現方法を工夫して描く。		6
8					2	2					8
9	水彩で静物、風景を描く。		鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。		8	3	鑑賞する。		洞窟絵画から現代美術まで、美術の流れの概要を理解する。		6

備考

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物を含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各種目（内容）の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。						
学習方法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践						
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	体づくり運動 ※体育理論 スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てることができる。	6	10	球技：ネット型 (卓球/バドミントン)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
	陸上競技	スポーツの歴史、文化的特性のスポーツの特徴について理解できる。 記録の向上や競争の楽しさを味わい、各種目特有の技能を高めることができる。					
5			6	11	球技：ネット型 (バレーボール)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
6			8	12			6
7	球技：ゴール型 (サッカー/フットサル)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	6	1	球技：ゴール型 (バスケットボール)	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	6
8			2	2			球技：ネット型 (卓球/バドミントン)
9			8	3	6		

備考 気象状況（猛暑）による運動禁止や制限によって、学習内容の変更があり得る。

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物を含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 保健分野における知識をテストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。						
学習方法	① 教科書・資料を用いた学習						
教科書・教材等	現代高等保健体育（大修館書店）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	健康の考え方	健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりがかかわること。	3	10			4
5			3	11	交通安全	交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行などの適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などがかわること。また交通事故には責任や賠償問題が生じること。	4
6	健康の保持増進と疾病の予防	健康の保持増進と生活習慣の予防には食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。 喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があること。	4	12			3
7			3	1	応急手当	適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。	3
8			1	2			4
9	精神の健康	人間に欲求と適応機制には様々な種類があること。精神と身体には、密接な関連があること。また精神の健康の保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であること。	4	3			3

備考

教科 科 名		家 庭		科 目 名		家 庭 基 礎		単 位 数		2	
対 象		高校1年		履 修 形 態		必 修		授 業 形 態		一 斉	
学 習 の 到 達 目 標		① 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ② 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。									
評 価 の 観 点 評 価 方 法		① 思考・判断・表現…授業態度、提出物から評価する。 ② 知識・技能…ワークシート等や実技試験をもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…出席、提出物、実習での様子、振り返りレポートなどから評価する。									
学 習 方 法		① 教室での一斉授業で内容を理解する。 ② 調理実習などの体験的活動により、実践的な態度を身につけていく。									
教科書・教材等		家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)									
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる		・生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律について知る。 ・仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて知る。		6	10	第3章 子どもと共に育つ		・性と生殖に関する健康について学ぶ。 ・子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもの生活習慣や衣食住について理解する。		8
5	第6章 食生活をつくる		・食生活の課題について考える。 ・栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について理解を深める。 ・食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。		6	11	第4章 超高齢社会を共に生きる		・超高齢者社会の背景を理解し、家族や地域による必要な支援について考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深め、高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるための適切な支援の方法や関わり方を考える。		8
6			・各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」について学ぶ。 ・調理の知識と技能を身につけ、調理や加工によりおいしさが変化することを知る。 ・日本の食文化の特徴を確認する。世界の食文化にも関心を持つ。 ・安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。 *調理実習：三食どんぶり		8	12	第8章 住生活をつくる		・住居の機能やライフステージごとの住要求を知る。 ・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となるよう住居の条件を知る。 ・気候や風土の違い、時代の変化によって大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ・持続可能な住居や、4つの「助」に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。		6
7	第7章 衣生活をつくる		・被服の機能や特徴について理解し、また社会生活を営む上での被服の役割を理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と装着について考えられる力を身につけ、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。		6	1	第5章 共に生き、共に支える 第9章 経済生活を営む		・家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・国・地方公共団体の制度などの支援体制、支えあいの構造について理解する。 ・個人や地域の果たす役割やつながり方について考える。 ・現代の消費生活における意思決定の重要性と情報活用について知る。 ・さまざまな販売方法や支払い方法を知り、契約の重要性を知る。		6
8			・環境に配慮した衣生活について考え、被服の洗濯や保管の方法を科学的に理解する。		2	2			・消費者保護制度について知り、消費者市民社会の実現に向けての行動化を考える。 ・経済的自立の重要性や将来を見通した働き方について知る。 ・家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて知り、持続可能な経済成長の実現に向けた行動化を考える。		8
9	*第6章 食生活をつくる		・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、和服や世界の民族衣装について理解する。 ・資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。ユニバーサルデザインの被服について理解を深める。 *調理実習：パスタ、野菜スープ		8	3	第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する		・持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルの工夫を考える。 ・人生の目標を達成し、自分らしい生活ができるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計をする。持続可能な社会の構築にむけた行動化を考える。		6

教科名	情報	科目名	情報Ⅰ	単位数	1		
対象	高1	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。						
評価の観点 評価方法	① 情報への関心・意欲・態度。 ② 情報を適切に収集・処理・発信させるための基礎的な知識の理解。 ③ 授業態度、課題の内容と出席状況、総合演習の内容。						
学習方法	① 教科書の解説と問題演習 ② PCルームでの実習						
教科書・教材等	情報Ⅰ（日本人教出版） 情報Ⅰ問題演習ノート（日本人教出版）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 第1節 情報の特性 第2節 メディアの特性 第3節 問題解決の考え方	情報の特性を考える。 メディアの特性を考える。 問題解決の考え方を身につける。	3	10	第2節 アルゴリズムとプログラム	変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。 配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する。	4
5	第4節 法の重要性と意義—著作権 第5節 法の重要性と意義—個人情報 第6節 情報社会と情報セキュリティ 第7節 情報技術の発展による生活の変化	著作権侵害について考える。 個人情報について考える。 サイバー犯罪について考える。 ソーシャルメディアの適切な活用方法を身につける。	3	11	第3節 モデル化とシミュレーション	モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。 プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする。	4
6	第8節 情報技術の発展による社会の変化 第2章 第1節 メディアとコミュニケーション	情報技術の発展と社会の変化を考える。 メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する。 情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する。	4	12	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ	コンピュータネットワークの構成を理解する。 データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する。 暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する。	3
7	第2節 情報のデジタル化	アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する。 コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する。	3	1	第2節 情報システムとデータベース	情報システムが社会をどのように支えているか理解する。 データベースの役割について理解する。	3
8	第3節 情報デザイン	情報デザインの考え方を知る。 情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する。	1	2	第3節 データの活用	データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。 数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。	4
9	第3章 第1節 コンピュータの基本的な構成を理解する 第2節 アルゴリズムとプログラム	コンピュータの基本的な構成を理解する。 CPUによる演算のしくみを理解する。 アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る。	4	3	まとめ		3

備考

教科 科 名	GSE情報		科 目 名		情報Ⅰ		単 位 数		1		
対 象	高1		履 修 形 態		必修		授 業 形 態		一斉		
学 習 の 到達 目 標	① 急速に発達するITを効果的に使用する実践能力を高め、ITツールを用いて、思考力・判断力・表現力の高いプレゼン能力を身につける。										
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 情報への関心・意欲・態度。 ② 情報を適切に収集・処理・発信させるための基礎的な知識と倫理観の理解。 ③ 授業態度、課題の内容と出席状況、総合演習の内容。										
学 習 方 法	① 外部指導員による講義と実習 ② プレゼンテーション										
教科書・教材等	情報Ⅰ（日本文教出版） 情報Ⅰ 問題演習ノート（日本文教出版）										
年 間 授 業 計 画											
月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数	月	学 習 内 容		学 習 の ね ら い		時数
4	AIリテラシー～導入		AIの得意・不得意を理解し、AIを何に活用できるのか考える。そしてどのような仕事がAIに奪われるのかを理解する。ビッグデータとAIを活用して新たな価値を創造するために、人間がすべきことを追及する。		3	10	AIのしくみについて学ぶ		マイクロビットを使い、環境測定を行うプログラミングを作成する。環境センサーで測量する。		4
5	データ・AIの活用領域		データサイエンスの技術は研究開発、製造、物流、販売、マーケティング、サービスの分野でどのように役立てられているか理解する。		3	11	AIによるデータサイエンスとシミュレーション		分析する対象領域をモデリングすることで、AIを用いたシミュレーションが行う。		4
6	データ・AIの活用		過去の行動パターンを特定し、将来の結果を予測するために、大量のデータに数理モデルを適用する予測分析する。		4	12	AIによるプレゼンテーション準備		プレゼンテーション準備		3
7	データ・AIの活用		過去の行動パターンを特定し、将来の結果を予測するために、大量のデータに数理モデルを適用する予測分析する。		3	1	AIによるプレゼンテーション準備		プレゼンテーション準備		3
8	画像処理とAI		画像や映像のデータを対象にコンピューターに読み込ませ、処理を行う。		1	2	AIによるプレゼンテーション		プレゼンテーション		4
9	画像処理とAI		画像や映像のデータを対象にコンピューターに読み込ませ、処理を行う。		4	3	まとめ				3

備考

教科 科 名	外国語	科 目 名	英語コミュニケーションⅠ	単 位 数	3		
対 象	高校1年	履 修 形 態	必修	授 業 形 態	習熟度別		
学 習 の 到達 目 標	① 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解できるようにする。 ③ 英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。						
評 価 の 観 点 評 価 方 法	① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能） ② 学習した知識や技能を活用して概要や要点などを目的に応じてとらえることができているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現） ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に取り組む態度）						
学 習 方 法	① 予習にて、本文理解に必要な語彙や文法事項を確認しておく。 ② 授業を通して、本文内容や文法事項などを理解する。 ③ 読む・聞く・音読する・書く・発表するなど、積極的に教科書内容に触れる。 ④ 英語を通して、情報や主張・意見を的確に理解できるよう復習に努める。						
教科書・教材等	教科書 ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I Revised（東京書籍） 副教材 速読英単語入門編（Z会）速読英単語必修編（Z会）						
年 間 授 業 計 画							
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	時数
4	ENRICH LEARNING I Unit 1 Why do people learn languages?	【旅行サイトの記事】 －理由を読み取る－ 人々が外国語を学ぶ理由と、それをいつ、どのように使うのかを理解する。 ・受動態 ・助動詞 ・動名詞	9	10	ENRICH LEARNING I Unit 5 How can you engage your audience?	【ウェブの記事】 －方法や助言を読み取る－ 体験したことを話したり聞いたりするための方法や助言を理解する。 ・過去完了形 ・SVOC [分詞] ・関係副詞how	12
5	ENRICH LEARNING I Unit 2 What do superstitions mean to you?	【機内誌の記事】 －要点を読み取る－ さまざまな国や地域で信じられている迷信やその背景について理解する。 ・助動詞の過去形 ・助動詞＋受動態 ・関係代名詞	9	11	ENRICH LEARNING I Unit 6 What are the qualities of a good leader?	【オンライン百科事典の記事】 －経歴を読み取る－ 優れたリーダーシップを持つ人物の経歴を知る。 ・分詞構文 ・関係副詞	12
6	ENRICH LEARNING I Unit 3 How can we promote sustainability?	【旅行レビューサイトの記事】 －特徴や評価を読み取る－ 上勝町のゼロ・ウェイストの取り組みについて理解する。 ・不定詞 ・分詞の形容詞用法 ・現在完了進行形	12	12			9
7			9	1	ENRICH LEARNING I Unit 7 What is your ideal lifestyle?	【英字新聞の記事】 －心情の変化を読み取る－ さまざまなライフスタイルや住む場所を選ぶ理由と、それぞれの長所・短所を理解する。 ・原形不定詞 ・仮定法過去完了 ・過去完了進行形	9
8	復習及び発展内容		3	2	ENRICH LEARNING I Unit 8 Why do we explore the universe?	【科学関係のブログ】 －賛成の意見とその理由を読み取る－ 各国が宇宙開発を続ける理由と、そのメリット・デメリットを理解する。 ・関係代名詞what ・関係代名詞の非制限用法	12
9	ENRICH LEARNING I Unit 4 What can we learn from people in Hawaii?	【博物館のリーフレット】 －概要・年表を読み取る－ ハワイ語やハワイ文化の歴史について理解する。 ・現在完了形の受動態 ・不定詞の受動態 ・不定詞の進行形	12	3			9

備考 学習進度または中心的に使用する教材は、クラスにより異なる。

教科名	外国語	科目名	論理・表現 I	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別		
学習の到達目標	① 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じ、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、話し手や聞き手の意図などを理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。 ③ 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を養う。						
評価の観点 評価方法	① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能） ② 学習した知識や技能を活用して概要や要点などを目的に応じてとらえることができているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現） ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に取り組む態度）						
学習方法	① 予習にて、本文理解に必要な文法事項、語彙を確認しておく。 ② 授業を通して、本文内容や文法事項などを理解する。 ③ 読む・聞く・音読する・書く・発表するなど、繰り返し積極的に教科書内容に触れる。 ④ 学習した文法事項や語彙などを復習し自分の伝えたい内容を英語で表現できるようにする。						
教科書・教材等	教科書 FACTBOOK English Logic and Expression I（桐原書店） 副教材 GRAMMARMASTER（Z会） 無双英語（本校オリジナル教材）						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	FACTBOOK Unit 0 Get to know more about your classmates	・相手について今まで知らなかったことを聞き出す。 ・相手と会話を続けて、自分との共通点を探し出す。 【動詞／基本文型】	6	10		・フードバンク団体を支援する手紙を書く。 【不定詞】	8
	FACTBOOK Unit 1 Smart home, smart city	・希望を伝え、スケジュールを相談しながら決める。 ・展示会についての感想をブログの日記に書く。 【時を表す表現】			FACTBOOK Unit 6 How can we become more health-conscious?	・自分の生活習慣を確認し、変えたい習慣を伝える。 ・生活習慣についての意見をウェブの掲示板上に書く。 【動名詞】	
5	FACTBOOK Unit 2 History and future of our town	・書店の魅力を紹介し、相手に関心を持たせて誘う。 ・移住体験ツアーをすすめるウェブの広告文を書く。 【完了形】	6	11	FACTBOOK Thinking Logically 3	・適切な具体例や説明が示されたまとまりのある意見文を書く。 【プレゼンテーション】	8
					FACTBOOK Unit 7 How many clothes do you buy?	・知人に贈るための商品を相談しながら決める。 ・企業の講演に対して感想やお礼のメールを書く。 【分詞】	
6	FACTBOOK Thinking Logically 1	・意見を明確に示したまとまりのある文章を書く。 【スピーチ】	8	12	FACTBOOK Unit 8 How do you decide which products to buy?	・店のおすすめの商品を比較しながら紹介する。 ・フェアトレード商品のよさをブログで発信する。【比較】	6
	FACTBOOK Unit 3 Preparing for a natural disaster	・防災グッズを紹介し、その特長を説明する。 ・防災意識を高めるパンフレットの文章を書く。 【助動詞】					
7	FACTBOOK Unit 4 Water supporting our lives	・水問題に関する相手が知らない情報を説明する。 ・道具購入の寄付を募るためのポスターを書く。【受動態】	6	1	FACTBOOK Thinking Logically 4	・つながり言葉を用いて論理的な流れの意見文を書く。 【ディベート／スピーチ】	6
8	復習及び発展内容		2	2	FACTBOOK Unit 9 A variety of ways to improve your English	・英語を上達させるよい方法を互いに説明し合う。 ・事前の問い合わせで疑問点を尋ねるメールを書く。 【関係詞節とその他の節】	8
	FACTBOOK Thinking Logically 2	・適切な理由が示されたまとまりのある意見文を書く。 【スピーチ】			FACTBOOK Unit 10 How can we become foreigner-friendly?	・観光客の要望に合ったレストランを提案する。 ・外国人観光客に役立つパンフレットの文章を書く。 【仮定法】	
9	FACTBOOK Unit 5 Save food you can still eat!	・余った食品をどうするか、相談して解決策を出す。	8	3	FACTBOOK Thinking Logically 5	・語句や文のつながりをよくして構成の整った意見文を書く。 【ディスカッション】 【スピーチ】	6

備考 学習進度または中心的に使用する教材は、クラスにより異なる。

湯梨浜学園

VICTORY
LIST

湯梨浜学園 VICTORY LIST 国語

		論理的文章	文学的文章	古文	漢文
高校1年	1学期	☐ 社会の変容と情報化について理解でき、現代の問題点について考察し、筆者の主張を批評することができる。		☐ 推量の助動詞(む・らむ・けむ等)の判別ができる	☐ 漢文の句法(使役・受身)が分かる。
				☐ 過去・打消の助動詞(き・けり・ず)の判別ができる。	
				☐ 完了の助動詞(つ・ぬ・たり・り)の判別ができる	
		☐ 「必修語彙ノート」の標準編が7割以上分かる。		☐ 「サクラサク古文単語」レベルAが8割以上分かる。	
	2学期	☐ 社会の変容と情報化について理解でき、現代の問題点についての批評を効率よく、まとめあげることができる。	☐ 行間を読み、隠された心情を読み取れる。	☐ 自発・使役の助動詞(る・らる・す・さす・しむ)の判別ができる	☐ 漢文の句法(疑問・反語)が分かる。
				☐ 断定(なり・たり)・その他の助動詞の判別ができる	☐ 漢文の句法・単語を生かし、短い文章を読解することができる。
		☐ 統計資料を正確に読み取りることができる。		☐ これまで授業で学習した文章の読み方や文法をいかしながら、現代語訳できる。	☐ 学習した漢文単語が7割以上分かる。
		☐ 「必修語彙ノート」の標準編が8割以上分かる。		☐ 「サクラサク古文単語」レベルBが8割以上分かる。	
	3学期	☐ 社会の変容と情報化について理解し、現代の問題点についての批評を、字数制限を守り、まとめることができる。		☐ 敬語(尊敬語・謙譲語・丁寧語)が判別できる。	☐ 漢文の句法(比較・最上)が分かる。
				☐ 学習した識別問題が理解できている。	☐ 漢文の句法・単語を生かし、1ページ程度の文章の大意を訳すことができる。
		☐ 本文の内容の要約や自分自身の意見を論理的に論述で		☐ 恋愛・仏教・身分などの古文常識が理解できている。	
		☐ 「必修語彙ノート」の標準編が9割以上分かる。		☐ 「古文単語コア」レベルCが8割以上分かる。	

湯梨浜学園 VICTORY LIST 歴史総合

学期	番号	内容
1学期	1	☐ 現代の生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や世界の歴史とつながっていることを理解できる。
	2	☐ 複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読み取れる情報や特色を表現できる。
	3	☐ 近代化の変化の例を挙げ、その例について説明できる。
	4	☐ 産業革命と交通革命の始まりとその広がりを理解する。
	5	☐ 中国の開港や日本の開国などを基に、世界市場が形成されたことを理解する。
	6	☐ 18世紀のアジア諸国における貿易の変化を説明できる。
	7	☐ 18世紀後半以降の欧米の市民革命やナショナリズムの動向を理解する。
	8	☐ 明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に立憲体制と国民国家の形成を理解する。
	9	☐ 列強の帝国主義政策と、その下でのアジア諸国の変容を理解する。
2学期	1	☐ 国際関係の緊密化、アメリカとソ連の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化など、諸資料から読み取る。
	2	☐ 第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴を理解する。
	3	☐ 第一次世界大戦後の日本やその他の国の社会の変化と社会運動(大衆運動)との関連を理解する。
	4	☐ 世界恐慌と各国の対応を理解する。
	5	☐ ファシズムの台頭、日本の対外政策の変化などが国際協調の動揺となったことを理解する。
	6	☐ 第二次世界大戦の性格と惨禍、戦時中の社会状況や人々の生活を理解する。
	7	☐ 国際連合の特色と国際経済体制を理解する。
	8	☐ 冷戦の始まりとアジア諸国の動向を理解する。
	9	☐ 日本に対する占領政策の変化、また日本の独立と安保条約の流れを理解する。
3学期	1	☐ グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。
	2	☐ 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国など第三の世界の台頭を理解する。
	3	☐ 冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張など国際政治の変容を理解する。
	4	☐ 世界経済の状況とともに、経済成長下の日本社会を理解する。
	5	☐ 石油危機による市場経済の変容と課題を理解する。
	6	☐ NIES、ASEANなどの急速な経済成長、日米貿易摩擦を理解する。
	7	☐ 経済が立ち遅れた社会主義国の市場開放を理解する。
	8	☐ 冷戦の終結とその背景、ソ連の解体のその影響を理解する。
	9	☐ 民主化や地域統合の背景と影響を理解する。
	10	☐ 地域紛争の拡散の背景と影響を理解する。
	11	☐ IT革命により、市場経済のグローバル化が一層進んだことを理解する。

湯梨浜学園 VICTORY LIST 地理総合

学期	番号		内容
1学期	1	☐	さまざまな図法で描かれた地図の特徴を理解している。
	2	☐	時差計算ができる。
	3	☐	領有権問題が理解できる。
	4	☐	地理院地図・地形図の問題が解ける。
	5	☐	ヒト・物・サービスの移動の様子を、与えられた地図から理解できる。
	6	☐	GISを使った地図が作成でき、図の特徴を読みとることができる。
	7	☐	外的営力による地形の特徴が理解できる。
	8	☐	大気大循環をもたらす風の性質を理解できる。
	9	☐	海流と循環について理解できる。
2学期	1	☐	ケッペンの気候区分がわかる。
	2	☐	雨温図・ハイサーグラフを使った問題が解ける。
	3	☐	第1次産業の地域的特徴が理解できる。
	4	☐	第2次産業の地域的特徴が理解できる。
	5	☐	第3次産業の地域的特徴が理解できる。
	6	☐	宗教・言語分布の特徴、民族問題について説明できる。
	7	☐	各地域において、地域の地理的特徴と課題が理解できる。
	8	☐	地球環境問題の世界的特徴と地域的特徴が理解できる。
	9	☐	資源の分布についての問題が解ける。
3学期	1	☐	先進国での人口問題の特徴が説明できる。
	2	☐	途上国での人口問題の特徴が理解できる。
	3	☐	世界の食糧問題の特徴が理解できる。
	4	☐	先進国での都市問題の特徴が理解できる。
	5	☐	途上国での都市問題の特徴が理解できる。
	6	☐	日本の自然災害の要因を説明できる。
	7	☐	日本の自然災害の特徴を、図を読み取って説明できる。
	8	☐	GISを利用して、災害を回避する方法が説明できる。

湯梨浜学園 VICTORY LIST 数学 I

学期	番号	内容
1学期	1	☐ 複素数の定義を理解している
	2	☐ 複素数の四則計算ができる
	3	☐ 負の数の平方根を理解している
	4	☐ 負の数の平方根を含む式の計算を i を用いて処理することができる
	5	☐ 2次方程式を、解の公式を利用して解くことができる
	6	☐ 判別式を利用して2次方程式の解の種類を判別することができる
	7	☐ 解と係数の関係を利用して問題を解くことができる
	8	☐ 2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる
	9	☐ 和と積が与えられた2数を、2次方程式を解くことによって求めることができる
	10	☐ 剰余の定理を利用して、多項式で割った余りを求めることができる
	11	☐ 高次式を因数分解できる
	12	☐ 高次式の2重解・3重解の意味を理解している
	13	☐ 高次式の虚数解から方程式の係数を決定できる
	14	☐ 高次方程式が虚数解 $a+bi$ をもてば、 $a-bi$ も解に持つことを利用できる
	15	☐ 数直線上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点を求めることができる
	16	☐ 座標平面上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点を求めることができる
	17	☐ 三角形の重心の座標を求める公式を利用できる
	18	☐ 2直線の平行・垂直条件を利用できる
	19	☐ 円の方程式の求め方を理解している
2学期	1	☐ 2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる
	2	☐ 3点を通る円の方程式を求めることができる
	3	☐ 円と直線の共有点の座標を求めることができる
	4	☐ 円と直線の位置関係を判定できる
	5	☐ 円の接線の公式を利用できる
	6	☐ 2つの円の位置関係を調べることができる
	7	☐ 2つの円の共有点の座標を求めることができる
	8	☐ 軌跡の定義を理解している
	9	☐ 媒介変数を利用した軌跡の求め方を理解している
	10	☐ 不等式が表す領域を図示することができる
	11	☐ 領域を利用する最大値・最小値の求め方を理解している
	12	☐ 一般角を表す動径を図示できる
	13	☐ 角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している
	14	☐ 弧度法で表された角の三角関数を求めることができる
	15	☐ 単位円周上の点を三角関数で表すことができる
	16	☐ 三角関数の相互関係を利用して様々な値を求めることができる
	17	☐ 式からグラフや周期を求めることができる
	18	☐ 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる
	19	☐ 加法定理を利用して、三角関数の値を求めることができる

学期	番号		内容
3学期	1	☐	2倍角・半角の公式を利用して三角関数の値を求めることができる
	2	☐	関数の合成を利用して、三角関数を含む方程式を解くことができる
	3	☐	極限値を計算して、微分係数を求めることができる
	4	☐	平均変化率や微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる
	5	☐	定義に基づいて導関数を求めることができる
	6	☐	導関数を利用して微分係数を求めることができる
	7	☐	接線の方程式を利用して、接線を求めることができる
	8	☐	曲線外の点から曲線に引く接線の求め方を理解している
	9	☐	関数の増減や極値を調べることができる
	10	☐	導関数を利用して、関数の極値を求めたりグラフを書いたりできる
	11	☐	導関数を利用して、最大値や最小値を求めることができる
	12	☐	不定積分の計算ができる
	13	☐	不定積分の定義や性質を理解している
	14	☐	与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる
	15	☐	定積分の定義や性質を理解している
	16	☐	定積分を含む関数を求めることができる
	17	☐	直線や曲線で囲まれた面積を求めることができる
	18	☐	絶対値のついた定積分の計算方法を理解している

湯梨浜学園 VICTORY LIST 数学A

学期	番号	内容
1学期	1	☐ 数列の定義・表記について理解している
	2	☐ 数の並び方に、その規則性を発見することができる
	3	☐ 数の並び方から推測して、数列の一般項を考察できる
	4	☐ 等差数列の公差、一般項を理解している
	5	☐ 等差数列の和の公式を適切に利用できる
	6	☐ 等比数列の公比、一般項を理解している
	7	☐ 等比数列の和の公式を適切に利用できる
	8	☐ 記号 Σ で表して数列の和を求めることができる
	9	☐ 階差数列を見つけることができる
	10	☐ 階差数列を利用してもとの数列の一般項を求めることができる
	11	☐ いろいろな数列の和が求められる
	12	☐ 漸化式が解ける
	13	☐ 数学的帰納法を用いて、証明することができる
2学期	1	☐ ベクトルの演算を利用して問題を解くことができる
	2	☐ ベクトルの成分を利用して問題を解くことができる
	3	☐ ベクトルの内積を利用して問題を解くことができる
	4	☐ 成分や内積を利用して応用問題を解くことができる
	5	☐ 位置ベクトルについて理解し、問題を解くことができる
	6	☐ 位置ベクトルの一意性を理解し、計算に利用できる
	7	☐ 内分・外分する点を求めることができる
	8	☐ 垂直条件を内積で考察できる
	9	☐ チェバ・メネラウスの定理にベクトルを利用できる
	10	☐ 直線のベクトル方程式を理解している
	11	☐ 円にベクトルを利用できる
3学期	1	☐ 空間上のベクトルを平面ベクトルの拡張としてとらえることができる
	2	☐ 空間のベクトルの成分を利用した計算ができる
	3	☐ 空間の点とベクトルの成分の関係を理解している
	4	☐ ベクトルの内積を、平面から空間に拡張して利用できる
	5	☐ ベクトルのなす角をもとめることができる
	6	☐ ベクトルの垂直条件を計算に利用できる
	7	☐ 四面体を位置ベクトルで考察できる
	8	☐ 空間における平面を、位置ベクトルで考察できる
	9	☐ ベクトルの分解を利用し、計算に利用できる
	10	☐ 空間の図形の性質を、内積を利用して証明できる
	11	☐ 2点間の距離の公式を理解している
	12	☐ 球面の方程式が求められる
	13	☐ 球面と平面が交わってできる図形を求めることができる
	14	☐ 球面の方程式から中心や半径を読み取ることができる

湯梨浜学園 VICTORY LIST 化学(理系)

番号		内容
1	☐	酸と塩基の定義が説明できる。
2	☐	反応式を見てブレンステッド・ローリーの酸・塩基を判別できる。
3	☐	酸・塩基の価数と強弱を判別できる。
4	☐	水素イオン濃度をpHに直すことができる。
5	☐	pH指示薬と使える組み合わせが判別できる。
6	☐	中和反応式が書ける。
7	☐	中和滴定で使う器具が分かる。
8	☐	塩の種類を判別できる。
9	☐	中和滴定の計算ができる。
10	☐	酸化・還元という言葉を用いて電池のしくみが説明できる。
11	☐	ボルタ電池・ダニエル電池のしくみが説明できる。
12	☐	鉛蓄電池の放電・充電のしくみが説明できる。
13	☐	燃料電池のしくみが説明できる。
14	☐	電気分解のしくみが説明できる。
15	☐	電気分解でおきる陽極・陰極の反応式が書ける。
16	☐	物質の三態と状態図の関係を読み取ることができる。
17	☐	水銀柱を用いた圧力の計算ができる。
18	☐	ボイル・シャルルの法則を用いた計算ができる。
19	☐	気体の状態方程式を用いてさまざまな値を求めることができる。
20	☐	混合気体の分圧を用いた計算ができる。
21	☐	水の飽和蒸気圧に関する計算ができる。
22	☐	理想気体と実在気体の違いを説明できる。
23	☐	固体(無水物)の溶解度の計算ができる。
24	☐	固体(水和物)の溶解度の計算ができる。
25	☐	気体の溶解度の計算ができる。
26	☐	沸点上昇、凝固点降下など質量モル濃度を用いた計算ができる。
27	☐	凝固点降下に関するグラフを読み取ることができる。
28	☐	浸透圧に関する計算ができる。
29	☐	コロイドの種類とその性質を説明できる。
30	☐	金属の面心立方格子、体心立方格子に関する計算ができる。
31	☐	ダイヤモンドや黒鉛のような複雑な結晶格子の計算ができる。
32	☐	イオンの結晶格子に関する計算ができる。
33	☐	熱化学方程式の種類が判別できる。
34	☐	問題文から熱化学方程式をつくることができる。
35	☐	ヘスの法則を用いた計算ができる。
36	☐	結合エネルギーに関する計算ができる。
37	☐	エネルギー図を用いた計算ができる。
38	☐	問題文や表・グラフの値を用いて反応速度式を使った計算ができる。
39	☐	モル濃度を用いた平衡定数に関する計算ができる。
40	☐	ルシャトリエの原理を用いて平衡の移動を説明できる。

湯梨浜学園 VICTORY LIST 科学と人間生活(物理基礎)

番号		内容
1	☐	$x-t, v-t, a-t$ グラフの意味を理解し、変位、速度、加速度を求めることができる。
2	☐	落体運動において等加速度運動の公式を利用できる。
3	☐	物体にはたらく力を理解し、物体にはたらく力を矢印を使って書くことができる。
4	☐	力を合成、分解し力のつり合いの式を立てることができる。
5	☐	連結している2物体に関して運動方程式を立て、解くことができる。
6	☐	摩擦について理解し、物体の運動に応じて摩擦力を求めることができる。
7	☐	圧力や浮力が発生する原因について原理を理解し、説明できる。
8	☐	仕事に正負があることを理解し、仕事を求めることができる。
9	☐	仕事の原理およびエネルギーの原理を理解し、式を立てることができる。
10	☐	力学的エネルギー保存則を立てることができる。
11	☐	熱量保存則を立てることができる。
12	☐	潜熱(融解熱、蒸発熱、凝固熱など)を求めることができる。
13	☐	熱量とエネルギーの関係を理解し、立式できる。
14	☐	波に関する物理量を求めることができる。
15	☐	$y-x, y-t$ グラフを任意の時間や任意の座標について描くことができる。
16	☐	縦波について理解し、疎密部や周期、波長、速さ、振動数を求めることができる。
17	☐	自由端、固定端の違いを理解し、合成波が作図できる。
18	☐	弦、閉管、開管の違いを理解し、状況に応じて振動数や波長を求めることができる。
19	☐	平面運動において、相対速度を理解し、速度や時間を求めることができる。
20	☐	放物運動の速度や変位、到達距離や時間などを求めることができる。
21	☐	剛体のモーメントについて理解し、つり合いの式を立てることができる。
22	☐	重心の求め方を理解し、剛体に重心を求めることができる。
23	☐	運動量と力積の関係を理解し、ベクトル図を使って運動量や力積を求めることができる。
24	☐	衝突2物体に運動量保存則と反発係数の定義を使い、物体の速度を求めることができる。

湯梨浜学園 VICTORY LIST 科学と人間生活(生物基礎)

番号		内容
1	☐	恒常性を説明できる。
2	☐	3種類の体液について説明できる。
3	☐	血液循環の経路を説明できる。
4	☐	血球成分の特徴について説明できる。
5	☐	酸素解離曲線から必要なデータを読み取り放出酸素量を計算できる。
6	☐	腎臓の構造とはたらきを説明できる。
7	☐	尿生成における各種成分の再吸収量を計算できる。
8	☐	肝臓の構造とはたらきを説明できる。
9	☐	各器官に対する自律神経系のはたらきの違いを説明できる。
10	☐	ホルモンの特徴を説明できる。
11	☐	内分泌腺と放出されるホルモンについて一覧表が書ける。
12	☐	フィードバックについて説明できる。
13	☐	血糖量調節に関する自律神経系及びホルモンのはたらきを説明できる。
14	☐	糖尿病についてⅠ型とⅡ型の違いを説明できる。
15	☐	脳下垂体を除去した場合の内分泌系の変化について説明できる。
16	☐	生体防御システムのうち化学的、物理的防御について説明できる。
17	☐	自然免疫について説明できる。
18	☐	細胞性免疫の流れを説明できる。
19	☐	体液性免疫の流れを説明できる。
20	☐	免疫系の異常(アレルギーや免疫疾患)について説明できる。
21	☐	ワクチンと血清について説明できる。
22	☐	森林の階層構造の特徴を説明できる。
23	☐	陽葉と陰葉を光合成曲線の違いから判別できる。
24	☐	植生遷移の流れを説明できる。
25	☐	世界の各バイオームの特徴を説明できる。
26	☐	日本のバイオームの水平分布と垂直分布を説明できる。
27	☐	生態系における生物と非生物的環境の相互作用を説明できる。
28	☐	食物連鎖と栄養段階について説明できる。
29	☐	炭素循環を説明できる。
30	☐	窒素循環を説明できる。
31	☐	キーストーン種について説明できる。
32	☐	人間活動を原因とした生態系バランスの乱れについて具体例を挙げられる。
33	☐	細胞の構造を図示し、細胞内構造物のはたらきについて説明ができる。
34	☐	細胞骨格を構成する3つのタンパク質について説明できる。
35	☐	細胞膜の流動モザイクモデルを説明できる。
36	☐	膜タンパク質における物質輸送であるチャネル・輸送体・ポンプの説明ができる。
37	☐	タンパク質の構造の構造について説明できる。
38	☐	酵素の特性と酵素反応の阻害について説明できる。
39	☐	タンパク質が関わる情報伝達、モータータンパク質について説明ができる。
40	☐	タンパク質が関わる細胞接着、生体防御について説明できる。
41	☐	呼吸の仕組みを説明できる。
42	☐	脱水素酵素の実験について、その目的と結果を関連付けて説明できる。
43	☐	各種発酵と解糖・呼吸の比較を説明できる。
44	☐	呼吸基質の違いにおける呼吸商の計算ができる。
45	☐	光合成の仕組みを説明できる。
46	☐	C3植物とC4植物、CAM植物の反応系の違いと適した環境を関連付けて説明できる。
47	☐	細菌の炭酸同化について説明できる。
48	☐	窒素代謝について説明できる。

湯梨浜学園 VICTORY LIST 英語

番号		内容
1	☐	各段落のトピックセンテンスを意識して読むことができる。(Reading)
2	☐	文章全体の大意を把握することができる。(Reading)
3	☐	指示語をとらえながら英文を読むことができる。(Reading)
4	☐	逆接・順接の接続詞を意識して読むことができる。(Reading)
5	☐	英文の基本構造(SVOC)を見抜くことができる。(Reading)
6	☐	分詞や関係詞による修飾・説明をとらえことができる。(Reading)
7	☐	形式主語(目的語)が示す名詞句(節)に気づき、文脈を考えることができる。(Reading)
8	☐	It is ~ thatの文において強調構文を見抜くことができる。(Reading)
9	☐	代用表現や省略を補って文脈を考えることができる。(Reading)
10	☐	共通テスト形式の問題(リーディング)で5割程度正答できる。(Reading)
11	☐	共通テスト形式の問題(リーディング)で6割以上正答できる。(Reading)
12	☐	共通テスト形式の問題(リーディング)で8割以上正答できる。(Reading)
13	☐	和訳問題において6割以上正答できる。(Reading)
14	☐	内容正誤問題において6割以上正答できる。(Reading)
15	☐	内容正誤問題において8割以上正答できる。(Reading)
16	☐	基本5文型を理解し、文章を書くことができる。(Writing)
17	☐	トピックセンテンスを書くことができる。(Writing)
18	☐	トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する。(Writing)
19	☐	for exampleなど用いて例を挙げながら書くことができる。(Writing)
20	☐	first, thenなどを用いて時間の順序を考えて書くことができる。(Writing)
21	☐	but, additionallyなどを用いて書くことができる。(Writing)
22	☐	イディオムや構文を取り入れた英文を書くことができる。(Writing)
23	☐	構文や文法を意識して並べかえ問題や英作文ができる。(Writing)
24	☐	パラグラフの構成を考えることができる。(Writing)
25	☐	パラグラフを構成することができる。(Writing)
26	☐	一つのパラグラフを英文で書くことができる。(Writing)
27	☐	直訳でなく、日本語の意味に沿った自然な英作文ができる。(Writing)
28	☐	英語で短いエッセイを書くことができる。(Writing)
29	☐	全国模試における英作文で4割以上得点できる。(Writing)
30	☐	全国模試における英作文で6割以上得点できる。(Writing)
31	☐	全国模試における英作文で8割以上得点できる。(Writing)
32	☐	イギリス英語の音声や表現に慣れる。(Listening)
33	☐	アメリカ英語の音声や表現に慣れる。(Listening)
34	☐	絵や写真を説明する英文が聞き取れる。(Listening)
35	☐	短い対話を聞き取ることができる。(Listening)
36	☐	講義文を聞き、その内容を理解することができる。(Listening)
37	☐	複数の説明を聞き、総合的に理解し判断することができる。(Listening)
38	☐	時刻や金額など、数を聞き取ることができる。(Listening)
39	☐	共通テスト形式の問題(リスニング)において4割以上正答できる。(Listening)
40	☐	共通テスト形式の問題(リスニング)において6割以上正答できる。(Listening)

番号		内容
41	☐	共通テスト形式の問題(リスニング)において8割以上正答できる。(Listening)
42	☐	未知の語彙に関する問いに対して6割以上正答できる。(語彙)
43	☐	300問テストで100点以上得点できる。(語彙)
44	☐	300問テストで150点以上得点できる。(語彙)
45	☐	300問テストで200点以上得点できる。(語彙)
46	☐	英単語の強化に努めている。(受験対策)
47	☐	イディオムの強化に努めている。(受験対策)
48	☐	構文・語法の強化に努めている。(受験対策)
49	☐	精読・和訳の強化に努めている。(受験対策)
50	☐	大意把握・要約の強化に努めている。(受験対策)
51	☐	条件英作文・語句整序問題の強化に努めている。(受験対策)
52	☐	自由英作文の強化に努めている。(受験対策)
53	☐	難関大の過去問題(対策問題)を解いた。(受験対策)
54	☐	私大形式の問題に取り組んでいる。(受験対策)
55	☐	国公立大形式の問題に取り組んでいる。(受験対策)